



① 企画コンセプト

- 設立 30 周年を迎える節目に、公益財団法人静岡市文化振興財団がもつ専門性を掛け合わせ、新たな価値と発見を提供する。
- コロナ禍は「距離を取り」「接触する必要のないよう」人々の生活様式と技術を大きく更新した。
- これらは既に日常に溶け込んでいる一方、人間関係の孤立・孤独化も指摘されている。
- 「笑顔」をキーワードとした文化事業を実施することにより、笑顔と交流、「出かける機会」を提供する。

② 企画趣旨

テレワーク、キャッシュレス、デリバリー、モバイルオーダーなど、**コロナ禍は「より距離を取り、より接触せず、より自宅で、より人を介さない」ように人々の生活様式と技術を更新しました。**これらの多くは当初、暫定的な策として取り入れられたものだったと思われませんが、今や日常として受け入れられており、今後も発展していくものと考えられます。それでは「距離、非接触、非外出」という傾向も加速し、人と人とのつながりが失われた世界になっていくのでしょうか。既にコロナ禍をきっかけとした人間関係の疎遠化や孤立・孤独化は、数多くの調査で指摘されているところです。

文化芸術の分野においては、**オンラインレッスン、ライブ配信、メタバース上でのコミュニケーション等が盛んに行われる**ようになってきました。前述の新しい生活様式同様、コロナ禍を一つの契機として発展してきたものです。しかし、これらは積極的に距離を取るためというより、むしろ距離を取ることをそのまま「よし」とせず、**ICT 技術を用いて、なんとか人と人との心の距離を縮めようと希求する現れ**にも感じられます。

感染拡大防止のため距離を取り、マスクで口元を隠すようになり数年が経ちます。顔の半分を互いに隠した形でのコミュニケーションを余儀なくされ、表情を読み取ることが困難になりました。未だ完全にこれまでの日常を取り戻し切れてはいません。相手はどんな人で、どう感じているのか。1枚の不織布という「薄くて厚い壁」を前にし、**心の距離を計る難しさと向き合い続けてきました。**

私たちは、その距離を縮めるものこそが、「文化」と「笑顔」であると考えています。

公益財団法人静岡市文化振興財団は 2022 年に、「つながり」や「出会い」と向き合い、その価値について考えるべく、音楽、科学、美術、舞台、歴史、生涯学習等、多分野のコンテンツを同時に実施し、異なる分野の交流と「新しい何か」の発見機会を提供する文化イベント、「2020 しずおか文化プロジェクト 新文化島」を実施しました。多くの出会いと様々な「文化」が縁となり、人と人同士がつながっていく様がそこにありました。

そして今、前述のプロジェクトを引き継ぐプロジェクト、「**笑顔 デカケル プロジェクト**」を実施いたします。本プロジェクトは、**当法人 30 周年**を契機とし、コロナ禍により失われてしまった「**表情**」や「**笑顔**」をキーワードとした**各種文化イベント等を実施す**

ることにより、笑顔あふれる日常を取り戻すきっかけとするプロジェクトです。減少してしまった「出かける」機会を提供する、人と人、文化と文化の架け橋、複数のジャンルを掛けあわせるという意味も込められています。

私たちは自分の関心に合ったニュース、サービス、コミュニティ等の情報にいつでもアクセスできるようになりました。日々、自分のために選別された情報に囲まれて暮らしています。自分好みにカスタマイズされた暮らしや便利さと引き換えに、異なる価値観に触れ、視野を広げる機会を逸しているという側面もあります。ジャンルを超えた（掛けあわせた）文化事業を提供することで、**新しい発見とつながりを提供することも本プロジェクトの目的の一つ**です。

世界はコロナ禍を乗り越え、新しい一歩を踏み出しつつあります。今ほど文化芸術が求められている時機はないかもしれません。「より沢山の人が」「より繋がりを持ち」「出かける機会」を提供できる。「笑顔 デ カケル プロジェクト」は、そんなプロジェクトになる事を目指しています。

3 テーマ・キーワード

テーマ：「笑顔 デ カケル」

笑顔

コロナにより失われた『表情』や『笑顔』について改めて掘り下げて考えるとともに、それらをテーマとした文化事業を実施することで、芸術文化の重要性を再認識し、笑顔あふれる日常をを取り戻すきっかけとする。

デカケル

コロナにより減少してしまった『出かける機会』を提供する。

カケル（架ける）

人と人、人と新しい文化芸術、文化と文化の架け橋となる事業を実施する。

カケル（掛けあわせる）

音楽と美術、生涯学習と歴史のように、多ジャンル・異ジャンルをかけあわせ、相乗効果を生み出す。

※「デ」は「～の状態で (with)」と「によって (by・from)」の両方の意味

(→笑顔で出かける、笑顔で掛けあわせる、笑顔によって人と文化の架け橋を作る、等)

4 企画の特徴・セールスポイント

- ・参加して楽しい！**自然と笑顔になれる事業**を実施。
- ・**出かけるきっかけ**となる事業を数多く実施。
- ・**マンガ、アニメ**などのポップカルチャーを取り入れた事業を展開。
- ・舞台芸術・音楽・美術・科学・歴史・生涯学習など**複数の文化芸術分野**に跨った各種事業や大型イベントを実施。
- ・上記のような事業を通じて、今まで持っていた興味関心とは異なる、「**新しい宝物**」「**新しい視点**」に出会うことができる。

5 プロジェクトロゴ

思わず「カケル」(駆ける) くらい、自由に「デカケル」(出掛ける) ことへの喜びと、出掛けたくなるようなイベントを作っていこう、という意味を表現しました。様々なイベントを「カケル」(掛け合わせる) ことで、新しい繋がりがや発見が生まれることへの期待の意味も入れ込んでいます。

渡っている虹は、沢山の人の笑顔。みんなの笑顔繋ぐイベントをみんなで作り、みんなで参加し、街にあふれる笑顔を増やしていきましょう！



6 実施予定事業

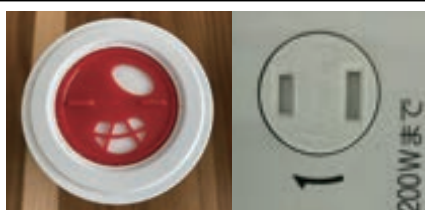
令和5年度(2023年度) ※プレ年度 (一部実施済み)



■ 新文化島 1.5

2024/2/18

令和3年度に実施した「新文化島」同様、静岡市民文化会館内外のエリアを使用し、ミニサイズの総合文化イベントを開催。



■ 笑顔に見える写真コンテスト

9月～12月募集、2月展示

笑顔ではないが、「笑顔に見える」写真コンテストを開催する。優秀作品は新文化島1.5にて展示する。



■ ラウドヒル計画 リレーマンガ企画

4月～5月募集、11月から連載中

マンガ執筆者を募集し、X(旧twitter)にて作品を連載。連詩のようにつないでいく企画。

https://twitter.com/scch_jp



■ おさんぽアニメーションを作ろう！

2024/2/17

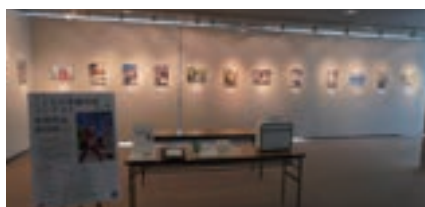
静岡市美術館で開催される高畑勲展を契機に、アニメーション作成(クレイアニメ・簡単なプログラミングなどを使用して)に挑戦する。



■ 赤ちゃんを笑顔にする音楽のおはなし

2023/12/3

音楽が赤ちゃんの発達にどんな役割があるのかを研究している研究者を招き、音楽と笑顔についてのサイエンスカフェを実施する。



■ こどもの笑顔写真コンテスト

6月～7月募集、10月～3月展示

つられて笑顔になってしまう、子どもの笑顔の写真コンテストを開催し、優秀作品を静岡市生涯学習センター等で展示する。



■ 落語公演事業「中秋の名寄席」

2023/9/17

誰もが笑顔になる落語公演を中勘助文学記念館で実施する。ライトアップ企画も同時開催。



■ 駿府城と徳川家康

2023/11/12,16,12/10

静岡市歴史博物館企画展「徳川家康と駿府城」開催中に、実際の駿府城公園内を探検するツアー。



■ 駿府城歴史カフェ 徳川家康と駿府

2023/11/10,24,12/8

静岡市歴史博物館企画展「徳川家康と駿府城」にあわせ、徳川家康の一生を紹介。

令和6年度（2024年度）

静岡市内文化施設等で、下記を含む文化事業・イベントを**約40事業実施予定！**



■ 新文化島 2

2025年2月

静岡市民文化会館の内外を使用した総合アートイベントを実施。



■ ラウドヒル計画 大型公演

2024/11/3、4

静岡ゆかりのテーマを取り上げた、市民演者による完全オリジナル舞台公演を静岡市民文化会館で開催。



■ ラウドヒル計画 リレーマンガ企画

2024年11月まで連載予定

マンガ執筆者を募集し、X（旧twitter）にて作品を連載。連詩のようにつないでいく企画。

https://twitter.com/scch_jp



■ しずび能（仮）

2024/6/9

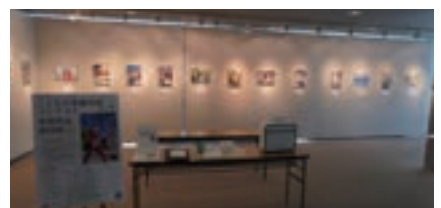
静岡市美術館「平野富山展」の開催にちなみ、富山の代表的彩色木彫《羽衣舞》の題材となった能「羽衣」を美術館エントランスで上演。



■ 琉球古典音楽 美と技の継承

2024/12/7

琉球古典音楽の美しさと技をもって、法人30周年を「笑顔」で祝し、静岡と沖縄の文化の架け橋として紹介する演奏会。静岡音楽館 AOIにて実施。



■ こどもの笑顔写真コンテスト

6月～7月募集、9月～3月展示

つられて笑顔になってしまう、子どもの笑顔の写真コンテストを開催し、優秀作品を静岡市生涯学習センター等で展示する。



■ 企画展『科学者になろう』（仮）

2024/12/21～2025/2/16

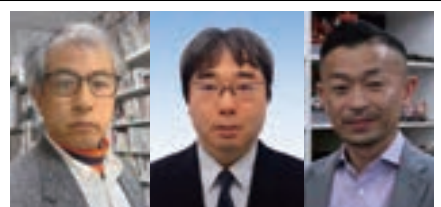
科学者が行っている思考のプロセス「観察、仮説、検証」を体験しながら学べる静岡科学館企画展。自分なりの「考え」を科学的視点、思考を用いて、「カタチ」にする機会を提供。



■ ホールでのトークイベント（仮）

2024年10～12月

知っているようで実は知らない、江戸時代の歴史や人びとの暮らしをわかりやすいトークで紹介するイベントを静岡市歴史博物館で開催。



■ サブカルチャーのチカラ、街のチカラ

2024年8月

静岡市生涯学習センターで、アニメやプラモデル分野の研究者、メーカー関係者による講演を実施する。



■ ベートヴェン交響曲全集 V

2024/5/11

ベートヴェン最後の交響曲、第九。2024年は第九初演から200年の記念の年。声楽家、合唱、オーケストラによるコンサートを静岡市民文化会館で開催する。



イラスト/おおいしももこ

■ しずおか産直！おいしいものパネル展

2024年9月～

静岡の地場産品の魅力を次世代に伝えるパネル等を5人のイラストレーターが作成。市内生涯学習センターを巡回展示する。



■ 絵本作家による講演・ワークショップ

2024年11月

絵本作家・鈴木のりたけ氏による講演会「おもしろがると世界は広がる」と、造形ワークショップを市内生涯学習センターで開催する。

※上記事業内容・開催日程は予定です。

7 公益財団法人静岡市文化振興財団 とは…



公益財団法人
静岡市文化振興財団
Shizuoka City Cultural Promotion Foundation

公益財団法人静岡市文化振興財団は、「静岡文化の創造、継承、発信に寄与すること」を目的として平成6年7月に設立された公益財団法人です。令和6年に設立30周年を迎えます。静岡市の外郭団体として、公益法人として、また芸術文化・生涯学習の専門集団として、各種事業を実施し文化・教育に係る行政施策の実現に寄与してきました。

また、設立当初より静岡市の公共施設の管理運営を受託し、現在、指定管理者として静岡市民文化会館、静岡音楽館 AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館、静岡市歴史博物館、静岡市生涯学習センター 11 館、静岡市南部勤労福祉センター、および静岡市小鹿老人福祉センターの管理運営を行っています。

8 主催・お問合せ

●プロジェクト主催／企画・制作：公益財団法人静岡市文化振興財団

※個別の事業については、クレジットが異なることがあります。詳しくはお問い合わせください。

《プレスリリースへのお問い合わせ》

公益財団法人静岡市文化振興財団

事務局 事業担当／竹田・櫻庭

TEL.054-255-4746 FAX.054-653-3501

